備中名所圖會

二

ル 4
4247
2

門 凡 4
號 4247
卷 2

早稲田大學圖書館
昭和30.2.23受
藏書

早稲田大學圖書

半澤文庫

後撰集ニ云和歌集ニ云

村上天皇天曆九年主基備中國風俗神歌

おもしろき山ぶきの花ゆゑ君ぞ見まほしくおもほゆ

秋風集ニ云

後撰集院仁治三年主基風俗備中

俊光

大しまの社松ふく風ニ夕霧ふかぬ時の秋なし

○神鴻小田歟。神宿。○和雨雅ニ。備前國の名所見ゆ。備前國の名所とし。秋篠光ふ也。備前として。細書

ふ。祐社とさへあるは。誤なる事。次に引る。延喜式の文と。大嘗会比歌とを。併てしるべし。

萬葉集に云

月余美能。比可里乎伎欲美。神嶋乃。伊素末乃宇良由。船出須和禮波。

遣新羅使人。乘船入海路上作歌。

延喜式神名帳に云。備中國。小田郡。神嶋神社。

續拾遺和歌集に云

建久九年大嘗会悠紀方の御屏風に備中國

前中納言資實

祐爲の浦にて。海人のたくもかりそめにすみなれぬるよの月かな

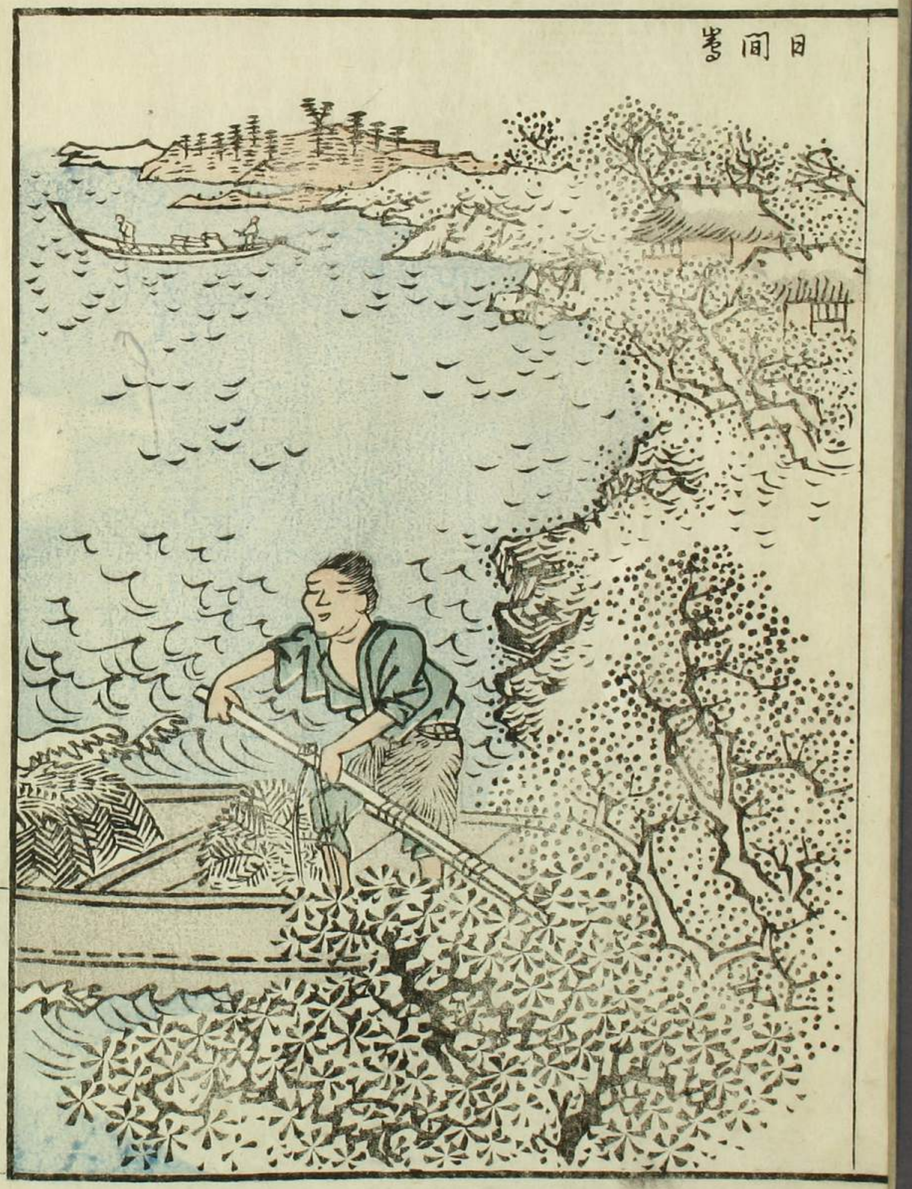
○宮川 小田郡。祐爲。祐爲浦 よつけ郡祐爲なり。

日本書紀に云。乙卯年。春三月。甲寅朔。己未。徙入吉備國。起行宮以居之。是曰高嶋宮。

古事記に云。於吉備之高嶋宮。八年坐。

○月出鴻 宮川に屬る。指出為なる説。○月出と。突出と。同じ説なるにより て。指出と轉用たるものか。

大嘗会和歌集に云


日間考

後冷泉院永承元年十一月十五日至基方備中國

本院思案舟記山之処

伴冬月出雲人〻繁舟記山之処

〇白石鴉 小田郡。白石島。

姫河院二郎百首よ云

石　　顯仲卿

波のうへかくるゝ月をかたらはんかくるゝ月をかたらはんかくるゝ月をかたらはん

○出鵜潟小田郡。出鵜潟。

山家集ニ云

まなゝとゝ潟ニ。京ヨリ見あふ人ともなくたゝて。やうしのつゝみ物とも。ゆきなりて。又しをくの志まよわたりて。あさなゝんするよ。ゝけるを竹て。

まなゝより志をくゝかゝまあさゝいつゝとゝいまて海るゝ也ゝ里

オ巳の白ゝ。つゝみ物とゝ。ある書ニつゝくゝ。

浦部

○玉浦 流ハ郡。玉潟。○ 往下ニ編入たり。

萬葉集云

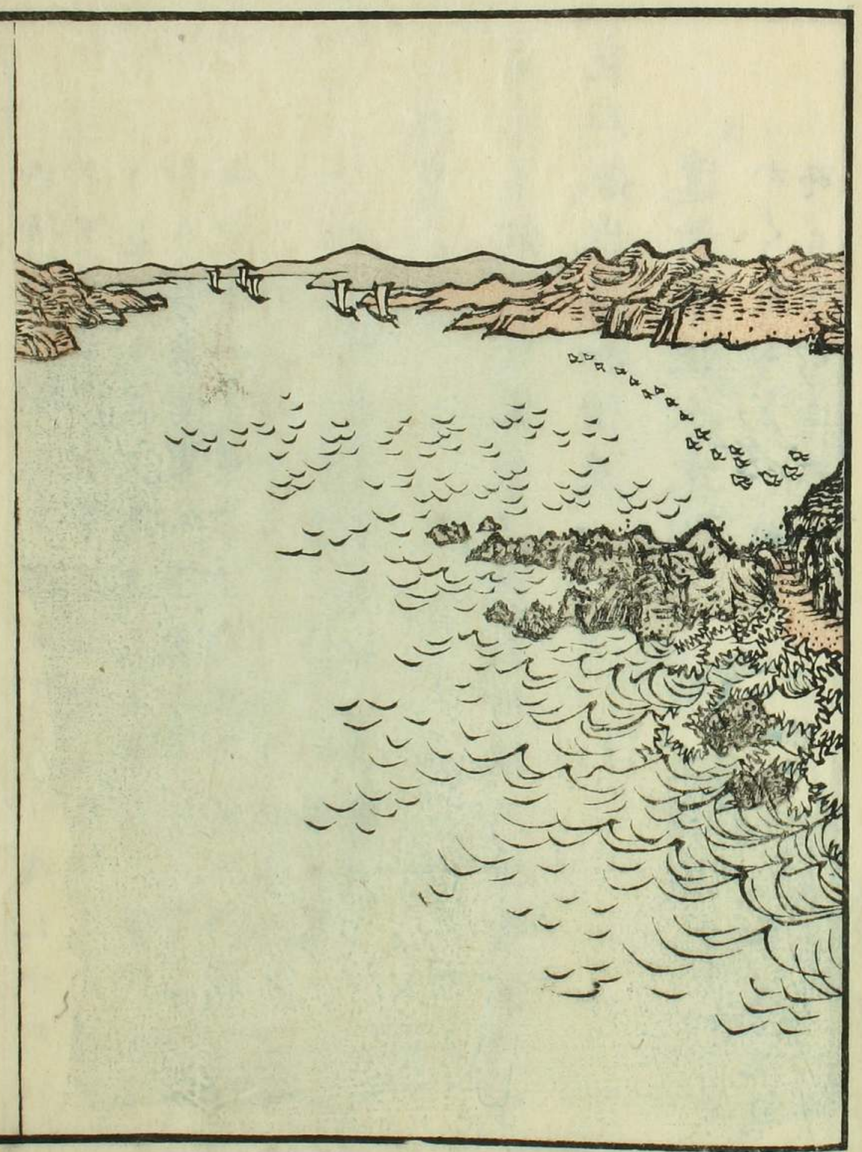
奴波多麻能。欲波安氣奴良之。多麻能宇良爾。安佐里須流流多豆。奈伎和多流流奈里。

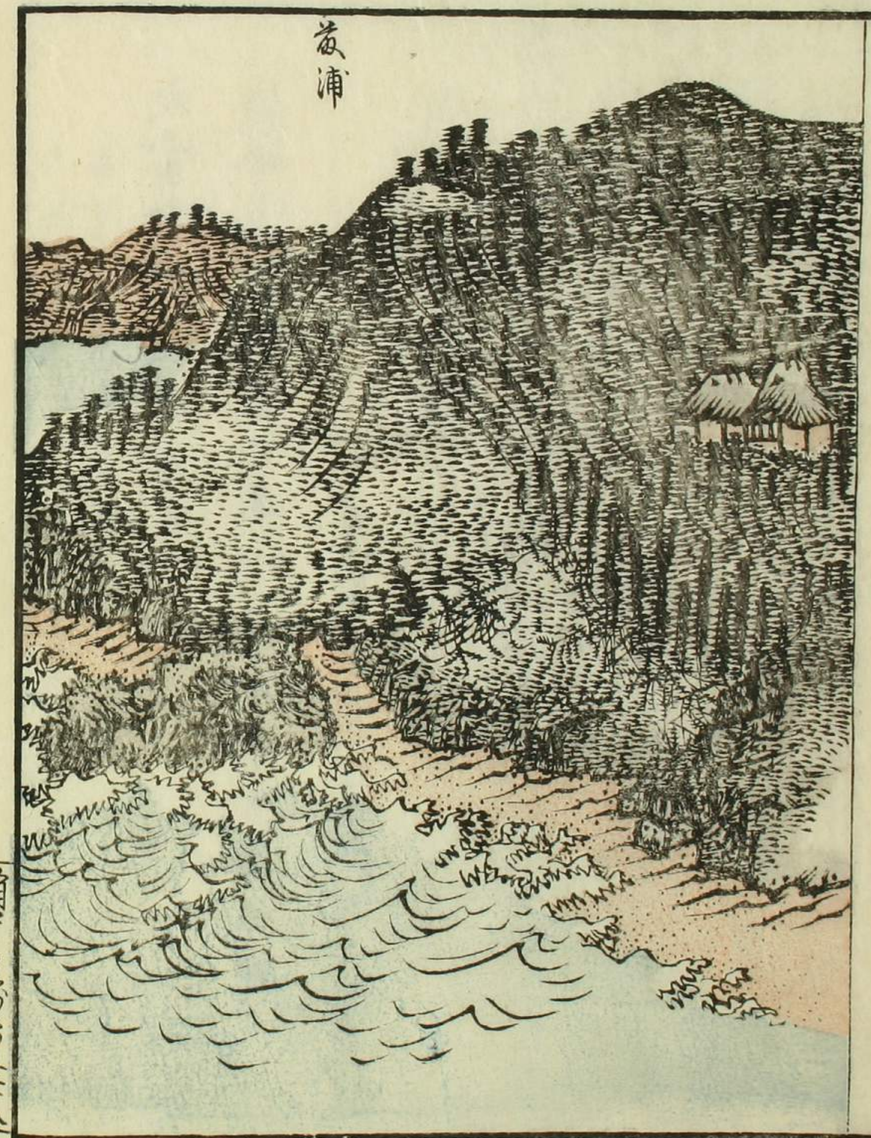
遣新羅使人乗船入海路上作歌

此歌。十三の巻ニ見えたり。かの都ニたちたむね。遣新羅使の。そなうみの歌。又舟出しまゝ時まゝ。時の。海路の。留別の歌。神潟。より。海路の。むこ。市南なゝ。次くゝ。はゝ歌。神潟。鞆浦。也。居浦など。西の国ゝ。はいでたがゝ。ぞ。記され。ゝ。さてゝ。はゝ歌。播磨の市南の。次ニあり。て。神潟の歌。はゝ。ゝ。ゝ。市南ニ。西ニて。神潟より東ニある事ゝ。代

石湾

風記にも。次下の歌。備中。備後の作なるべし。備中の間なる名も笑えぞ。然るべしといへり。備前の国の玉浦を。玉浦といひ。玉浦といひ。玉浦といひ




蒲浦

山陰道出たる限なて。あら磯九十町ばかりもつゞきたる。古歌なども。みつての。磯なとあるも。よしありて。萬葉集の歌にも。むきに。よくあつまる所なり。こゝなるべし。又れゝ。磯なるとハ。地の名なハあらゞしてゝ。たゞ磯のなるといへるなとてもあるべし。さるなとても。事の縁ハ。みな歌なて。いまゝ地名とゝ。さだむべき形り。

萬葉集云

月余美能。比可里乎伎欲美。神嶋乃。伊素末乃宇良由。船出須和禮波。

遣新羅使人乘船入海路上作歌

かくあるうへハ。かねの神島なりけること。明らか形り。志かるに。依法名所多。あつ丸

たゞ書どもに。磯なる浦を。紀州とのゝ志なきる丸。くゝしからざる形り。神島も。磯なる浦も。古なる物なり。延喜式。萬葉集を。はじめとして。遣新羅使の。通さしい海路ハ。本州なるぞかし。紀州形るハ。同名吳所なて。なの事なるべし。

建保三年内裏名所百首なる云

磯間浦　　順德院御製

神島や磯なる浦なあまの子もむすびすてゝみつ

従二位家隆

ゆふなぎの浦なる神島やいそまのうらに衣かゝ紀

○萩浦　磯なる浦の。南なつゞきたる所なて。南に向へる浦なり。

大嘗會和歌集ニ云

後三条院治暦四年十一月ニ基方備中國

三月 茂浦ヨリ　雑能　前筑紫守従五位上茂浦朝臣種衡

雑ヨリ　ハ　ヒ　ヒ　ヒ

○きひたおし山 伊山なり。一宮のたまたまゆゑ有て。おし山といひふゑなして。當山とみて。大山といふなり。秋濱氏ふもとびの中山と考るなり。

夫木鈔ゑ云

きひたおし山 備中 兼德二年正月庚申寺合

よみ人しらず

○有木山 賀陽郡。高梁村なり。○中山ゑつゞけ。

大嘗會和歌集ゑ云

後二条院治暦四年十一月白基方備中國

前筑前守從五位上菅原朝臣經衡

有木山を祈初

祈るこゝろ有りけりの山をかけ山ずれたちもの祈たのもしなる

夫木鈔ゑ云

あり木山 備中 名所寺中 盛永

ありき山今あらきとも名こそかなしたちもとまる

兼德二年正月庚申歌寺合 橘盛永

万代ゑ有りきの山をかけ山樣君ゑさつゆく和杖ゑ歌

中山のつゞきなる有木ハ。セゞ紀所なれど。成規卿の紀所なるて。つひはそこなて。ゆ

ゆゑ也ひ多形ど。あきれなる紀から。世ゑ名言きゑ。大嘗会の歌形どゑ。よま

きしハ。こゝ也こゝろなるやと。たゞ也
しハ。ゆゝしゝ也けり。こゝ文化十二年九
月の比。吉備津宮の宮人。河本宣易。ヒガ
やどを。とひ来るにと〻ゞ。神祠も多て。
多木神社とて。吉備津宮の摂社なり。又古
歌よ。万代よ山の玉椿。とよ。
椿も。今よ。ありといふ。たの道玉椿ハ四
らゞ。白椿と多と。いゝバ。志ゝれバ。狩まゝ
を。かゝ寺事あり。ゝの椿ハ。ゝ大
木なりしゞ。孝からぬ世よ。四ゝ也なる。仏
の堂ハ焼たりし時よ。ゝれもやけて枯た
也。今のハ。それひこゞゝ彩ゞなれど。なか
ゝ多ゝ多さけ也。そのゝ藥ハ。あるゝなゝゝに
て。爰時ハ。橘のごとく。也びゝ一ひゝつ
ちき也。世の岩ハ。椿のごとく。也ぶさ彩て
おつること彩し。そハなゝ多。よ和よゝつ
し椿る時ハ。世ハ岩の。椿ハごとくよ。能て
ゝゝ。藥も大きに多。色もかゝきゝり。とか

た也。色づゝる物語なる
えちかみよゝゝに志ゝ侍。

○鼓山 賀陽郡 板倉村よ在。

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和五年十一月也基備中國風俗
善淵為政

糸入吉高ノ
鼓山 賀陽郡

おきて方代とのみゆゝるハつゝみの山社ゝふゝ多ゝ
後三条院治暦四年十一月也基方備中國
前筑前守従五位下菅原朝臣経衡

名ふゝゝゝつゝみの山社ゝふゝ代ゝはるゝにゝゝ侍ゝゝ

金葉和歌集ニ云

大嘗会主基方屏ハ条書亭ニ敷山ニよめる

藤原行盛

きりたちてみの山路ふみそめて雪ぞ代々なるそうれ記

是ハ保安四年社度ニて。主基方。本州なる事。上ふ也。下ニも引る。かゝ也むら山の歌と。孫宮山の歌ニ。名所和歌集ニ。この歌を引て。丹波の。敷山の歌ときるゝ。

四やまより彩り。

○雄倉山

大嘗会和歌集ニ云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中国

本文ハ奥文章博士保定朝臣家経

雄倉山 作者

たゝ山岩ぬ[illegible]

○石屋山 賀陽郡。奥坂村ニあり。

大嘗会和歌集ニ云

村上天皇天暦九年主基備中国風俗神歌

いそや山 作者

[illegible]

後一条院長和五年十一月二日主基備中国

丙帳
五月

石屋山

内裏檜隈善法寺長為改

拾遺和歌集ニ云

治暦四年後三条院の御時大嘗会ニ悠方神

楽の幸いとや山ニよりて　藤原経衡

万代集ニ云

高倉院仁安三年主基御屏風　備中

清輔

神代ニ至て結界ての動なき事ニ成ぬ

新勅撰和歌集ニ云

貞應元年ニ基ニ成る風俗いとや山　この年ハ基方ハ。加州

なるべし。こゝに志る事。殿下の

石くら山の所ニ成る。あげつらふべし。

檜中納言頼資

深みどりなる色ハ千代もいとや社山ニ成ぬ

○神村山　窟屋敷。生坂村の内。西坂ニ成る。

万代集ニ云

かみむら山　神村　備中保安元年大嘗会ニ基方御

屏風

みな振みむ山の志ぐれいやとおもふなのもとむ　後京行盛朝臣

夫木抄よ云

正意大堂会　隆博　歌をの事。神社歌よいへり。

万代をかけてそいのるふる振神村山社峯のまちの花

和爾雅よ。昔の俗前の名所とす。秋深覚て。夫木俗前と書かれた。と
も。け歌をさへ引て。夫木俗前と書かれた。と
もに誤まり。夫木はそ俗中と書る。そ社うへ
此度の自基方ハ。本州なりし事。あまたう
びたるしたり。その例よ
見てもたるべき所なり。

○信山

續古今和歌集よ云

正元二年大嘗会の比よみ侍る　正元二年ハ。
里よ出もるを。文意元年と。れ方ど
度の事なれば。うゐにたるまま。

中務卿親王

まとらの位の位山乃小松原ことやの世の月見なるらん

大嘗会和歌集よ云

伏見院正意元年自基俗中　隆博

すぎらまの位の山社動の舟寄舟まくるくるの俗人
第中よ。第中の自社。くとらと
るハ。誤なれば。はらくつ。

○日葉山考字歟。山後村より考。
大嘗會和歌集より云
後三条院治暦元年十一月廿一日より基方備中国
前筑前寺後五位上藤原朝臣鍾衛
日葉山
あのあさくに和歌の山ちらしけくもある君が代の多
夫木抄より云
ひさしの山日葉備中国意大嘗会
大蔵卿隆博
ちぢの年なるまちにひさしの山のみ時ちけさ世のさ[illegible]えなるらしる

○巖待山賀陽郡。言塚村より在。○世より。帝釈山
とかいひて。いづれど。巖待ハ。言塚村よりつけきハ。け山。賀陽。考字。窪屋の。王歟
げつ。さて。歟より。ひかたし。さ
よりて。こ社歟より。山とハあらねども。歟
大嘗會和歌集より云
後冷泉院永承元年十一月十五日より基方備中國
巖崎
木工頭兼文章博士藤原朝臣家経
巖ちれの山より[illegible]ま歟の[illegible]代のち[illegible]
東かより。寺田の白を。文字ふもはらぬこと
より。かちひがめたる。今その[illegible]ちよより
て。々ふ[illegible]かきつ
まども。歟あるべし。

麻佐末山 下巻勢秦ノ村より在

延喜式神名帳云。下道郡。麻佐木神社。

文末勢ヨ云

佐ヨ紀の山 佐佐木 延久九年大嘗会

佐中 新撰資實卿

まちよ山 松毛ちつる紀 松の字。マツキとよむべきヨ。他ホカより見えず。おもふよ。見和字なして。貝原好古の。和俗制字甚多。不ハ 文字ハ 称字ナリ 遍枚記。といへる類なるべし。本

正意大嘗会

大花卿隆博

時為つるまちよ弓ちよ山のそうれなりしあるもみちのそ弓てうちは

○妹山 下巻勢。妹村より。妹山市場といふ所を。又ある人の説より。猿掛山をいふとれ侍り。○村名より今ハ妹とかけり。考字新。妹尾村。氏の妹尾。うふ。妹を。セとよそり。又和名抄ふも。庭妹を。爾比勢とそ。これら義もたがひ。例も多なるを訓なるを。年ごろうたがひて。もしハ。妹を誤まるなるて。その妹ハ。和字なるべ。思へりしが。けり。妹ハ。夫の義。書たり。延喜式ふも。妹をセとよそり。かの妹より見えず。は書して。貝原氏の。和俗制字甚多。とれへる類なるもき。

ちれば。和名抄よも。もとそ。庭妹なるし。

を。なる語。氏も。村名も。誤まる事ある侍し。この故ヨ。今集の侍ヨ。古今集のうれをあらうそつ。そふを。

紫沖ヨ。和名抄ふ引て。妹を

セとよむべき例とせるか。
考ふるならばぞふるやはらん。
大嘗會和歌集よりよる云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中國

本歌 藤原基俊朝臣

妹山下有水石其色紅葉

秋深みかつらの川さゝなりや河ぞ山ぞもみちそめてる

○富山 濃に郡。富村よりの。田郡の。矢掛へ通へ坂路の上
よりの。左方よりたてる山をいふ。

大嘗会和歌集よりよる云

村上天皇天暦九年主基方備中國風俗神歌

むかしより名つけそめける富山そこの若代の花をなをける

第二の句。そこ文字を。一本よりとよるか。
句を。原本より。たゝえよりなれるもまるまる。
本紙よりよりてあらるべつ。

夫木紙より云

とみ山 冨 備中 家集 基盛

ゆきみ山のみまきの若代あるべきあるなり紀ゆ

大嘗會和歌集より云

後一条院寛和五年十一月二日主基備中國

内藤相模守藤原長為政

已酉 寺尾

富の山

とみの山風土記に高倉代に賞ありしまてよ

○大倉山 小田郡。大倉村なり。○門宮と中社

たたら山なるべし。と手村の三村

貴所にへ里。森のおなじ池ありて。

次なる歌のたもむきにはへる。

大堂舎和歌集に云

村上天皇天暦九年大堂を備中國風俗神歌

おかくら山

吉備の國大くら山はたたらの代とて有る所なり

後一条院寛和元年十一月に基備中國風俗

弥二十

大くら山 東かは。大の字を。石に作る。

今歌にはよりてあら書べし。

善法寺為政

石見國に石見くら山の神事を毎年よりて家居に勤る

○石見山 小田郡 矢村より

大堂舎和歌集に云

後三条院治暦四年十一月に基方備中國

石見山

前筑前守俊信上義家郡兵衛衛

今よりハ弟仲くらいそ山たちそ岩の松ちるはへそ

○かさ免の山 未詳 ○わづ岡の。吸江山に。

かさめ松といへる松あるべき

と。星のをぢども詠まつりたり。けゝの山の事はあらぢぢや。又姓氏録云。笠朝臣。孝霊天皇皇子。雑武彦命之後也。應神天皇。巡幸吉備國。登加佐采山之時。飄風吹放御笠。天皇惟之。鴨別命言。神祇欲奉天皇。故其狀爾。天皇大悦。賜名賀佐。笠臣亦同。この笠とは。古書多くみえたり。まゝあたりを。笠臣國と云へる事も見ゆ。わが星れ笠自ハ。笠臣を岡よ。書りつるにあらい誤也。はゝ。自を岡よ。笠自考證よ。記されたる。ぢや。とわが父の。笠の山なるべきよしゝが。かゝ。まだ。わが星なるべ。和尓雅なるに。後考の名あとき。ごとし。和尓雅なるに。後考の名あとき。ハ。こゝに引る歌の詞を見ても。誤なる事ぞかし。

夫木抄よ云

かさ免の山　笠目　後中　正應大嘗会

大納卿隆博

けゝ免ゝ不かさ免の山ゝ笠ゝ未まて事ゝ免ゝくゝみよ事ゝゝあまわき

免くみよの。よハ。の文字を。誤まるにそけゝらぢや。

○岩倉山　小田郡。岩倉村よ。○奉社。池築ゆ神の。れそ山なるべ

大嘗会和歌集よ云

後二条院治暦四年十一月ゝ基房備中國

石くら山　前筑前守従五位上菅原朝臣経衡

岩くら船ゝる石くら山ゝ今よりハれわくの年よ法まんとすゝん

阿高山

備中名勝考上四十二

第三の句。一本よ。
数三ならびなき里。

新勅撰和歌集より云

貞應元年皇基の御願所円寺いそくら山叶寺の主
基方ハ。中州なる。玉葉集の。秋坂山弘
歌のはし書より。明らかなり。類字名所和
歌集より。叶歌なり。山城國。黒茂の院歌とある
なり。山城國ハ。大堂会の皇基方なり
しるべ。物より
見えぎ。

檜中納言頼資

ふる引の岩くら山の日うけよりやみてのみてふ形をかたるらん

○高月山 後月郡。本村より云。

支木鈔より云

備中名勝考上四十二

当の所なき山 高月 備中

大藤卿隆博

夢たるる高月山の月ゆけよりもみてふ形をかたるらん

○弥高山 川上郡。高山市より西。○下道郡ふも。
賀陽郡ふも。同名の山有里。されど
遠州の州道の記より。海より見ゆるよりを
志るしたり。高山の弥高山と。海より。十
里あまり西ぶ。むら山の上より。飯を盛
あげたるごとく。まろく。うるはしく見え
て。十月ばかり。二三月まで。雪志ろくつ
もれり。されよりて。俗より。飯の山といへ
り。高山と名よれ。まるう。まるう。当かく
そびえたる山なれば。弥高といふ名ふも。よ
くかなひ。歌ふも。雪をよまれたるも。よ
くあへり。山ふこそ。名所とハきべけ
き。下道なるハ。海より。里。づつに一里ま
まり形る所なり。さばかり里けちかき山な

きざ。海より里見ゆるを先づんい。わらにぞ
やおもかの山。連山よりて。いづこを峯
とさだめ。孫言とかふ名よ。かな
へ里とも見えぎたんをけるる。賀陽歌なる
え。海より里見ゆるあるよりは。二の山
よは。雲もそやそくつもるところよあらば。

金葉和歌集より云

大嘗会主基方備中國孫言山をよめる

前参議行盛卿

雲ゐまでいやゝ高山の桂より雲ゐまでなれる名紀みる里

清少納言双紙より云

峯を孫言社峯傍注備中より云

備中名勝考上四十三

○松原山未詳○旧説より。上房郡。松山より西と
の上。いとゝ高くして。原とをみしが。山
し。又原より出きる歌の歌より。松原行人往
雪。くあるよかあるそず。行路とす歌ところ
よりは。一説より。川上郡。二ケ村より西と
いへ里。こいなるは。寛永の。郡輿地図より
も見えて。原とも。いひつべき原なり。今も
官道より。行人往来とあるに。よ
くかなへるがおとくれもの由。

大嘗会和歌集より云

村上天皇天暦九年主基備中國風俗并歌

まきたちの山

を紀を形るまきたちの山の深みとり為かくそ花のむ君ちもき子

風雅和歌集より云　　院御製

村雨ぢなりのそ時ゆく雲間に秋のはつる紀伊の松原

伏見院

紀の松原山乃秋の色ゆふされば雲間にうつる月の影

秋風集より云

建久九年三月備中　　資實

色かへぬ松原山のかげよりも老の色こそみなるらん

○長田山　未詳○旧説に。川上郡。中賀村より。

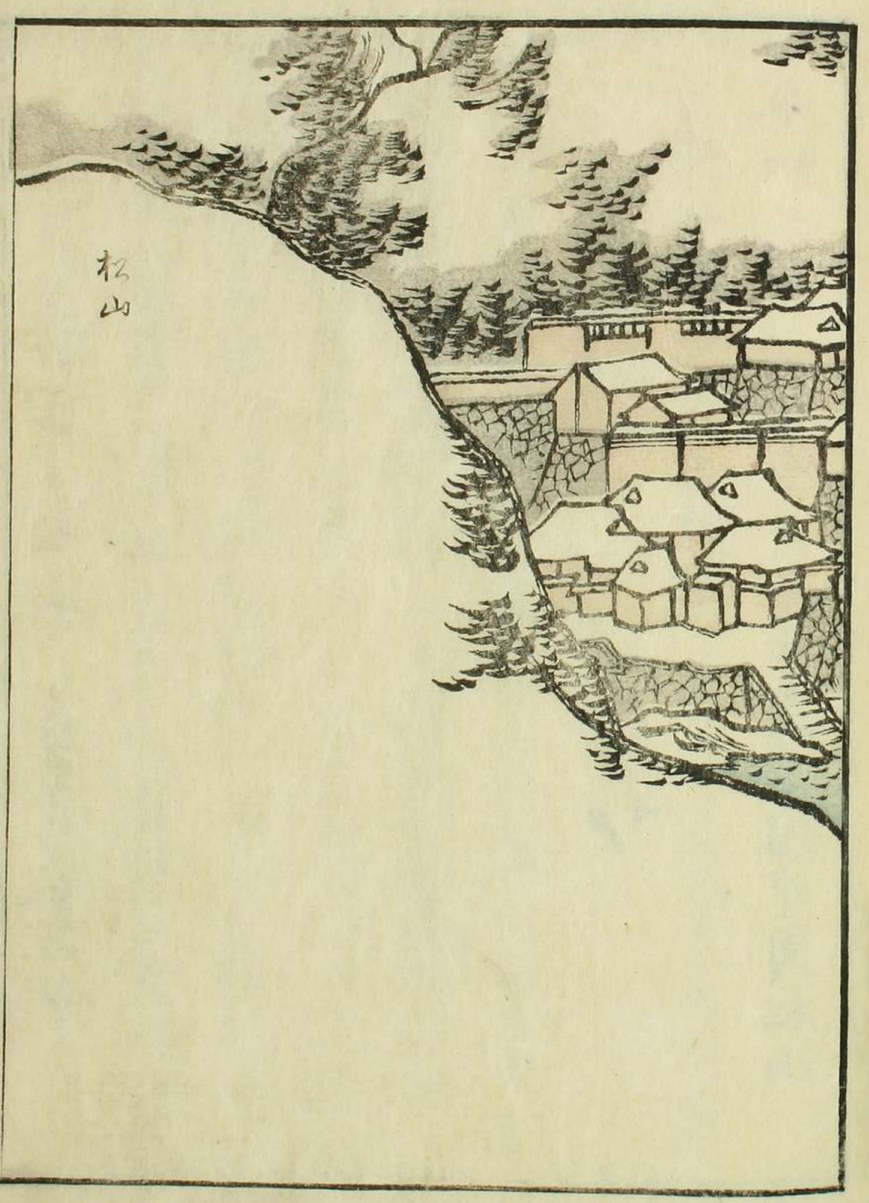
なるよしとし。又哲多郡。矢戸村と。坂本村の

いふとも。川上郡。言山市の。穴門山をいふとも。ひて。さだかならぬ。今思ふに

そ。小田郡と。小坂と。の堺なる。今は警察山といふ。いふ。ふるはのやま。その山を。陰徒記に。陰徒記より。精掛城の援兵。長田山の陰より。伏たりしよしを。たるきるは。此山社なるべし。そ比ましでは。たかいひしよや。又は山の東北麓より。降琴石といふ岩あり。むかし。吉備公の。琴ひきはてゝ。びゐひ所なり。と。傳へたり。是を故事ふまして。琴ひきはてゝ。びゐたる所。と。歌よさられしなるべし。かにも。よりさ。それもひよれふなり。此よそもらしつ。別巻より。あれど。なはなりて。こゝ

千載和歌集より云

後一条院の御時長和五年大堂会を碁方御屏風より備中国長田山の禁より琴ひきはてゝひ


松山

したる所なよ和ゆ　善法寺政行

和ゆしのこれかりしたりしたりしたる世田社山の景乃松風

○西行を山川上歌。王村の山たるべし。

大嘗會和歌集よ云

正應元年立基　備中　大藏卿隆博

作りし紀氏の山社西樓八畝のかたえ春うるえかも

○松山上房歌。松山。

野續古今和歌集よ云

永和元年大嘗會の基方屏風備中國松山

十五丁の宗廟ぬしし松山社樹子者多清りしり雷　檀大納言忠光

○宮倉山松山よ在。○八幡宮たゝセ　ふ山なり。

新千載和歌集よ云

村上御時天曆九年大嘗会の基方備中國

宮倉山ゆ　よみ人しらず

雲社上ゆ万代よりゆ西るゆ山社寄ゆ我ゆ千ゆ

詞華和歌集よ云

後冷泉院御時大嘗會の基方御屏風よ備中

ほたかくらの山すそのもとの人花つみ者をか
曽かきたる雪こそんよよ色る

後京家種朝臣

ふもとにたちくらの山なつむ物はゝたゞ紀のとみまのもと

大堂會和歌集ゟ云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

十二月 言葉山白雲多積　前筑前守従五位上後京朝臣種衡

雲ゐたちのぼるくらの山すそ隆ゝ清きゝる

○秋坂山川上郡玉村ゟ在。里人訛て。アイサコといへり。又田井村ゟ在とも云。

大堂會和歌集ゟ云

後一条院長和五年十一月二日主基備中國

内蔵權助菅原孝標朝臣為政

戊申 九月 秋坂山

ゆくみちすゑの秋坂山をゝ世ゝなつのまつゝのまつゝひてと紀ゝ彩ちん

玉葉和歌集ゟ云

貞應元年大堂会主基方御屏風ゟ備中國あ

紀さゝ山

前中納言頼資

○大村山上房郡。有納村ゟ在。○支村ゟ。大村といふとゝろゟあり。

独しゝ多隆ゝ山ゝ秋坂山のゝらゝかゝん

大堂會和歌集ニ云

後一条院長和元年十一月ニ基俊中國風俗

大むろ山　善淵朝臣爲政

春の代ハ永くぞ吹むろ山ゆ見るなみ風おのもしく山ゆ見るなみ

ハ。ゆ。ゆ。ゆ

○花見山 阿賀郡。花見村にあり里

夫木抄に云

きぬかさ山 花見俊中 正應大學舍

大藏卿隆博

今てしるちらぬ樣の花見山風もうらゝに治まれる世に

末世の白を。一枝風もうごかぬとなり。

○直山 未詳○諸本小坂村の内に。枝と

はいふ不可。その山をこゆるを。すぎ山

越とはいふ形り。はもだ。すぐの形りたる

詞にて。なかの詞をかよはしていへるに

もあらずや。こはいたもひえての考に

そはべらば。こゝろみに云るもなほ。

大嘗會和歌集に云

後三条院治暦四年十一月立基方備中國

前筑前守從五位上藤原朝臣經衡

三月 廿二 直山旅宮過山

道にあるいとゝ思ふ事もなかりしかわかれ世よさく生ふるる